

気になる今後のまちづくり 町政を問う!

認知症サポーター養成の取り組みは

サポーター養成講座を実施

問 一人暮らし高齢者の見守りが各区を中心が始まろうとしています。高齢化社会となり認知症のかたを抱える家庭も多くなりました。認知症への理解不足や認知症のかたとの接し方がわからないなど、これから認知症への理解促進の取り組みが必要になっていきます。

答 先日、※キャラバンメイト養成研修会が2回開催されていますが、須恵町では何名の受講があり、キャラバンメイトさんの総数は何名になりましたか。

現在の須恵町における認知症サポーター養成の取り組み状況と、これからの取り組みについてお聞きします。



今村 桂子 議員

中嶋町長 先日開催された研修会には、8名の受講があり、平成24年3月現在で11名の方がキャラバンメイトの資格を有しています。また、本年4月から開設された須恵町地域包括支援センターの職員も受講しており、今後、研修会での講師役を予定しています。

今後の取り組みとしては、まず民生委員の皆さんに養成講座を受講していただき、認知症の早期発見・早期対応を推進します。その後、各種団体向けにミニ集会や養成講座を実施して多くの方々に認知症についての正しい理解をしていただければと思います。

高齢化とともに認知症の方の数は増加しており、全国で85歳以上の4人に1人が発症するといわれています。本町ですから、170名の方に症状が出てもおかしくないと思われれます。認知症にならないような工夫が必要です。例えば託老所のようなものができ昼間は子どもたちと一緒に過ごす中で、何らかの形でお年



サポーター養成講座実施準備中の包括支援センター職員

※キャラバンメイト
認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を努める人です。キャラバンメイトになるためには所定の研修を受講し登録する必要があります。

寄りの役割を作り、子どもたちのパワーをもらって、元気になっていただくといいような社会ができればいいと考えられています。



日本一の議会広報

広報特別委員会 視察レポート

平成24年6月6日～7日 山梨県昭和町



研修中の広報委員

平成24年6月6日～7日、山梨県昭和町議会に広報の視察研修に行きました。

昭和町は東西4km・南北4.84kmで、甲府盆地の美しい自然と交通・産業の中心としての利点をいかけた田園都市です。面積は9.14km²・人口1万7417人・議員数16人です。

昭和町議会は、平成23年度町村議会広報全国コンクールで、議会だより149号が最優秀賞を受賞されています。研修時、153号の発行を終えられたところでした。24ページ編成の余裕のあるレイアウトで、分かりやすく・読みやすい紙面となっています。

『議会改革』『議員と学生がワークショップ』などの特集や、住民・議員の対話集会『井戸端会議』、区長と議員の対話集会『多事総論』など活発な議会活動の様子が手に取るように伝わってきます。また、予算・決算審査や委員会報告なども審議の経過や内容が分かりやすくまとめられ、円グラフなどで見やすく工夫されています。

一般質問の追跡記事や住民参加の連載『昭和町に住んでみて』など町民が興味を持てるような記事など、紙面構成にも工夫がこらされています。

研修では、議会広報作りに関する説明・質疑・応答の後、「須恵町議会だより」のクリニックをしていただきました。

昭和町は2007年から議会改革に取り組み、休日議会や議会活動報告会が開催されており、2010年に議会基本条例を制定しています。山梨学院大学と連携を結び、学生による町民の議会に対する意識調査・模擬議会の開催・町づくり政策提言報告会なども行われています。

また、議会改革の一環として本



昭和町役場正面玄関にて 昭和町広報委員の皆さんと

年3月議会で議会災害対策本部設置要綱を制定し、災害時における議会・議員の対応マニュアルを作成されています。

この研修後、須恵町議会でも全員協議会において、災害時行動マニュアル作成の提案を行い、総務建設産業委員会で作成し議会に提案することになりました。

広報作成に当たり、研修で学んだことを取り入れながら、更に町民の皆様に興味をもって読んでいただけるように工夫をこらしていくと共に、議会活動を理解していただけるように、分かりやすく・読みやすい広報作りに取り組んでまいります。